



卓話 佐野馨会員 100 歳

本日はこのような大袈裟な会を催していただき恐縮の至りでございます。大正9年9月11日生まれで満の99歳、昔で言いますと数え年100歳でございます。ここ数日視力が落ちて、眼科で調べましたら加齢黄斑変性と言う新しい病気だそうで、本日は大丈夫か心配でしたが、皆様のご声援で来ることができました。本当にありがとうございました。

私の経歴をお話しさせていただきます。大正9年、生まれは博多の川端のみどりや仏具店です。小学校は冷泉小学校でした。私は科学的な仕事や計算が好きだった。九州大学に行きたかったが、当時九大には理学部がなく、それが嫌で家を飛び出して大阪に行きました。生活費も苦しい時期で大変苦勞しましたが、幸いにも大阪大学の理学部に行くことが出来ました。そして3年後に卒業しました。当時は就職難で、東大出ても就職なかった時代。そんな大変な苦しい時代に苦勞して成人になったわけでございます。

昭和19年召集令状が来て、東京の立川航空整備師団というところに行きました。そこは陸軍の航空のメッカでした。そして卒業して、教官要員となります。まもなく浜松の航空整備師団というところに転勤になり、すぐ教官になれと言われました。

時代は、学校とか整備師団ではなくて、もう軍部というか内地の国防の為の部隊に変わっていききました。毎日飛行訓練をしていた。浜松は富士山の横で同じ高さを飛ぶ、そこから伊豆半島あたり、天気の良い日は素晴らしい景色だった。忘れられ無い。

3ヶ月ほどいたらいよいよ戦地へ行かなきゃならないと。アメリカ人は真珠湾攻撃がよほど応えたようで、B29を大量生産した。その基地がサイパン島、19年の7月にサイパンで日本軍が玉砕し、そこを中継基地として、東京大空襲が始まった。

まもなく、B29の整備状況を見てこいという命令がでまして偵察機に乗りまして、それは同時に攻撃機でもあります。それでサイパンへ行った。かなりの低空を飛行していても相手の戦闘機が矢のように追いかけてくる。アメリカの軍備力の素晴らしさを知った。

その後また戦況が変わって、今度は米英軍の硫黄島攻撃が始まった。小さな島の小さな飛行場に2万人ほどの部隊がいました。その硫黄島も1ヶ月でもうダメだ、全部玉砕。戦っている時に、水がないため、東京浜松から硫黄島に水を運び、空から落としていました。

ついに沖縄作戦が始まった。私たちは熊本に第六航空軍を作った。福岡大刀洗に司令部を置き、海軍は大村が中心、鹿屋が空軍の中心だった。操縦士関係は浜松から大刀洗へ移動した。私たちも兵舎がないので農家に下宿して、大刀洗空港で業務をしました。新しい飛行機の製作、ゼロ戦よりさらに優秀な飛行機を開発し披露することが仕事ですが、日本国中戦禍でやられて材料がないし、帰ってくるのが精一杯の飛行機しかしか作れない。

そして原爆があり、8月15日の終戦が決まった。たまたま軍の連絡機で移動中に、広島を上から見たがそれは見るも無残な街の姿だった。二度と戦争はしてはいけないと強く思った。



国際ロータリー第2700地区

福岡南ロータリークラブ

Fukuoka South Rotary Club

終戦の時にもう学校はやめようと文部省に申請しておりましたら、文部省から先生が足りない
ので九州大学で教えてくれとなった。間もなく教員生活を終え、昭和24年に湯浅電池という会
社に入った。そして新しい社会に貢献するのが私の使命だと思い、アメリカに行く機会を作っ
たりもした。また本田パーツの社外役員ということをして80歳までやった。毎日がとても忙しかっ
た。東京大阪日帰りのようにいった。

忙しかったのですが、やはり働くことが一番大事です。ロータリーの皆さんもみんな頑張っ
て。私も50数年間ロータリーにいて、58歳の時29代目の会長をやった。当時は仕事が忙しか
ったので、あまりお役に立てませんでした。

もう時間ですね。変な話しばかりして申し訳ありませんでした。人生長生きして忙しい目に合
うのが一番です。最後にみなさん、ロータリーは長くいればますます良くなります。1年2年
で辞めたらダメですよ。

【広報委員より一言】

佐野会員の素晴らしいお話でしたが、週報では紙面に限りがあって今回かなりかなり省略させ
ていただきました。そこで、お話をノーカットで10月号の月報に載せようと思っておりま
す。どうぞご期待ください。

